

今こそ「チーム北中」として

生徒の皆さんは、今どんな心境でいるのでしょうか。置かれた状況が同じではないので、心境も当然異なるでしょう。しかし、方向だけは皆同じであってほしい、一人もその方向からそれることがないようにしてほしい、私は心からそう思います。コロナウイルスが北中に忍び寄ってきました。世の中の状況から言って、今はどかがそういう状態になってもおかしくありません。たまたま北中だったということです。

そういうときに全員でそろえたい方向が二つあります。一つは「これ以上のウイルスの侵入は阻止する」という方向です。全員がその方向に体を向け、横に並んで同じ歩調で前進することが大切です。

具体的には、これまで取り組んできた感染予防の対策を継続するとともに、これまで以上の危機感をもって生活することです。人間の弱さの一つとして、「まさか自分が」という意識をもちやすいということが挙げられます。交通事故や不審者などについても、そういう意識は必ず心の隅にあるものです。

今こそ、今回の臨時休校になった状況をきっかけとして、感染予防の意識を一層高め、「ウイルス侵入阻止」の方向に足並みそろえて進んでいきましょう。マスクの着用、手洗いと消毒ソーションルディスプレイスタンスの確保、無言給食、私語のないバス車中……今回はそれらを見直す良いチャンスだととらえましょう。二つ目は「チーム北中で動く」という方向です。試合やコンクールでは勝敗や審査結果が必ずついてきます。皆さんはそれらをどのように受け止めますか。一部の仲間のミスで負けた、目指した賞が獲れなかったと考えますか。

チームというものはそういうものであってはなりません。望まない結果を一部のチームメイトに責任転嫁したり非難したりした時点で進歩はありません。あるのは後退、聞こえてくるのは不協和音です。

今回、PCR検査を受ける仲間と受けない仲間が生まれましました。そのことで亀裂が入る「チーム北中」であってはなりません。立場は違ってても、皆で克服していく、そういう方向を目指さなければなりません。

私のこの文章をいつもHPに上げてくれるのはI教頭です。彼も受検者の一人となり、本日自宅待機しています。彼の代わりにHPに上げてくれたのはY教諭とYA教諭です。二人以外にも、電話連絡や消毒作業など、自宅待機の仲間の分を、出勤した職員が進んでカバーしてくれました。「チームというのはこういうものだ」と、私は校長として、北中の職員を誇りに思います。生徒の皆さんにも、「チーム北中」を意識して主体的に動いてもらいたいと願っています。（二月十日 記）